

3. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について

事業番号	事業名		
①	地域発見プロジェクト：「御南の昔・今・未来」		
団体名	御南中学校区ESD地域連絡会	担当者名	松本 和子

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

（5月～2月）地域ボランティアの方の協力を得て行った実践。参加者4名。

地域の方の協力を得て、御南小学校の成り立ちや地域にある史跡などについてグループごとに調べ学習を行う。地域にある神社や史跡など、今まで知らなかった歴史を知ることで、地域のすばらしさを再確認し、自分たちが暮らしている地域を大切にしようとする態度を育てる。また、熊本の震災を調べる活動を通して、自分たちの地域の防災についても考え、自分たちの地域をどのように守っていくのか考えて実践する力を育む。



（写真：地域の神社を調べている場面）



さらにフェアトレードの授業から自分たちの地域と世界がつながっていることに目を向けさせ、自分たちのできることを考えて実践することで、持続可能で住みよい社会づくりに、主体的に関わる子どもに育てていきたいと考えている。
（写真：外部講師によるフェアトレードの授業の場面）

2. 取組の成果

今年度は、地域の方から地域の歴史や文化を教えていただき、地域のよさを再発見しただけでなく、外部講師による授業を行ったことで、再発見した地域を守るには自分たちができることは何かと考え、防災についての意識をもつことができた。また、震災にあった熊本の小学校に手紙を送り、自分たちのできることを考えて実践する力も少しずつ育ってきた。

そして、実際に外国に行ったことのある外部講師の授業から、自分たちの地域と世界がどのようにつながっているか気づくことができた。

3. 今後の課題（次年度への引継やより充実した内容にするために）

地域としての歴史資料や人材が乏しいこともあり、地域の歴史や文化を調べる活動には限界があると考えている。今年度のように、実際に体験したことのある外部講師の授業を通して、自分たちの地域と他の地域を結びつけたり、世界とつなげたりすることで、いろいろな視点から地域を再発見していきたいと考えている。

事業番号	事業名		
②	食と環境のプロジェクト： 「バケツ稲を育てよう」 「考えようみんなの地球」		
団体名	御南中学校区ESD地域連絡会	担当者名	松本 和子

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

（5月～2月）地域ボランティアの方の協力を得て行った実践。参加者27名。

バケツ稲栽培やお飾りづくりの活動を通して、米作りの難しさや楽しさを体験する。また、地域で農業に携わっている方をお招きしていろいろなアドバイスをさせていただくとともに、米から食の問題、自分たちの地域が抱えている環境の問題について学び、子どもたちがくらしの中でできることについて考え、実践した。

（写真：用水の水質検査をしている場面）



また、この学習をきっかけに自分たちを取り巻く様々な環境問題にも関心をもち、調べ学習を行う。その後、自分たちにもできる活動を考え、実践したり、発信したりする活動を行った。

（写真：自分たちのできることを話し合っている場面）

2. 取組の成果

地域の方とバケツ稲の栽培に取り組むことで、水の大切さに気づき、用水の水質検査を行ったことをきっかけに、自分たちの生活と環境問題が大きく関わっていることに目を向けることができた。また、外部講師を招いて様々な環境問題について専門的に教えていただいたことで、自分たちにできることを考え、実践したり、環境のためにできることにも気づいたりすることができた。そして、小さなエコ活動を積み重ねていくことで、持続可能な社会をつくっていくことの大切さを実感することができたように思う。

3. 今後の課題（次年度への引継やより充実した内容にするために）

今年度は、環境問題についての外部講師を4回招いて授業を行った。専門的に教えていただいたことで、より興味をもって取り組めたように思う。自分たちのできるエコ活動（節電・節水など）は、学校内では実践できていたが、家庭の中で実践できている子どもは少なかった。来年度は、子どもたちの家庭まで巻き込む実践をしていきたい。また、バケツ稲の活動を見直し、他の作物を育てる予定である。

事業番号	事業名		
③	食と環境プロジェクト：「さつまいもを育てよう」 「みんな一緒に昔遊びをしよう」		
団体名	御南中学校区ESD地域連絡会	担当者名	松本 和子

1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

（5月～2月）地域ボランティアの方の協力を得て行った実践。参加者50名。

地域のボランティアの方に教えていただいて、5月にはさつまいもの苗を植え、10月には大根の種をまいて、栽培する体験活動をした。収穫後は、お世話になった方々を「おいもパーティー」や「大根パーティー」に招待して、感謝の気持ちを伝えた。地域の方との1年間の継続した交流を通して、お年寄りのもっている経験や知恵にふれることができると考えている。



（写真：地域の方とさつまいもを植えている場面）



また、多くの地域ボランティアの方や保護者の方に教えていただいて、お手玉、こま、まりつきなどの昔遊びを体験し、昔の遊びの素朴な楽しさや工夫を知る活動も行った。

このプロジェクトでは、1年生という発達段階を考慮して、まず、さつまいもの苗植えや大根の種を植えることから収穫まで一連の栽培活動の楽しさをしっかり味あわせたいと考えて実践した。そして「昔遊びの会」では、地域の方々との交流を通して①コミュニケーション力（自己肯定感と他者への尊重を基盤とした、表現力や調整力を含む）②持続可能な発展に関する価値観（地域社会に貢献する人々の生き方に対する共感と尊敬）を育てたいと考え、活動を行った。

（写真：地域の方と昔遊びを体験している場面）

2. 取組の成果

1年間の活動を通して、子どもたちは作物を育てる楽しさや収穫する喜びを感じることができた。また、地域の方から教えていただく活動を通して、お年寄りのもっている農業や食文化についての知識や知恵にもふれることができた。給食の食材についても興味をもったり、残量が減ったりして、食に対する意識も高くなってきたように感じる。

そして、自分たちの住む地域に対する愛着も少しずつ育ってきている。地域の方への感謝の気持ちをもち、あいさつなども以前よりできるようになり、地域とのつながりを少しずつ感じるできるようになった。

3. 今後の課題（次年度への引継やより充実した内容にするために）

今年度は、さつまいもを収穫する前の下準備も地域の方と一緒にすることができた。この活動によって、より一層収穫の喜びを味わうことができた。また、継続した交流は登下校のあいさつにも効果をあげているように感じる。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

■ 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）

時間外活動の時間を使用

ユネスコクラブの活動として実施

その他（）